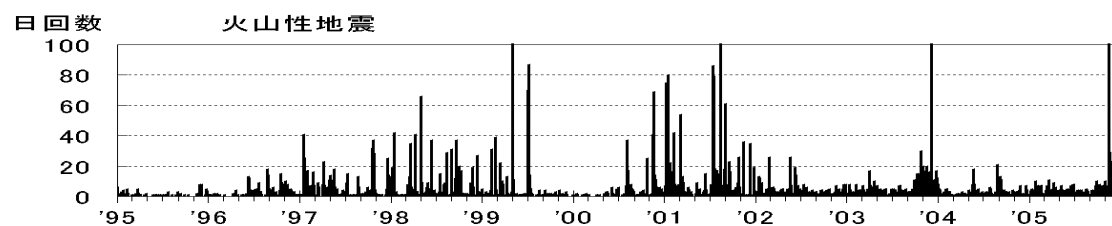
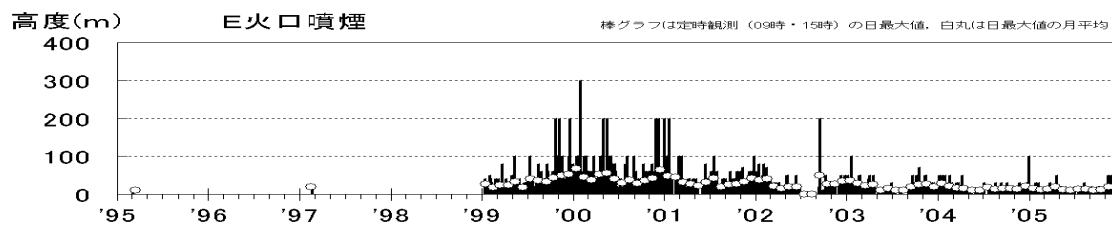
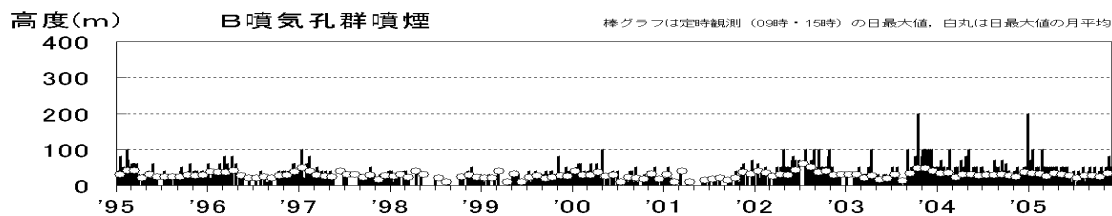
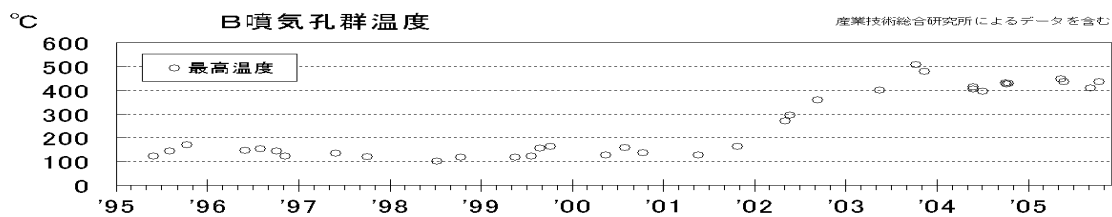
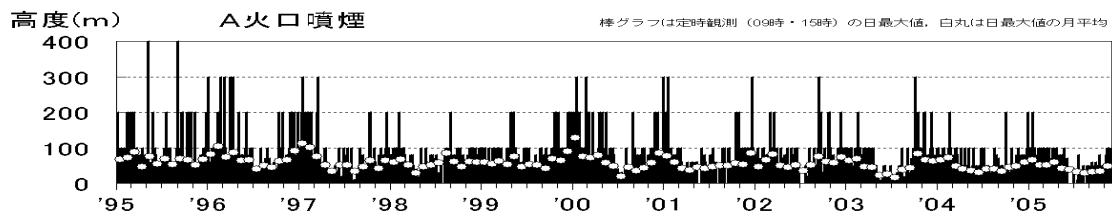
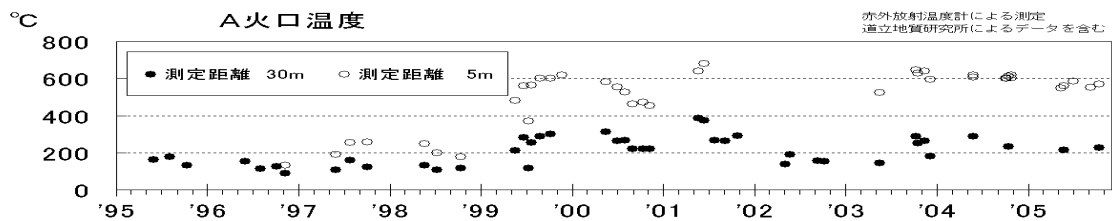


樽前山

1 概況

15 日に一時的に火山性地震が増加しました。A 火口及び B 噴気孔群では高温の状態が続いていると推定され、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。



最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月 1 日～2005 年 11 月 30 日)

2 噴煙の状況

各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。

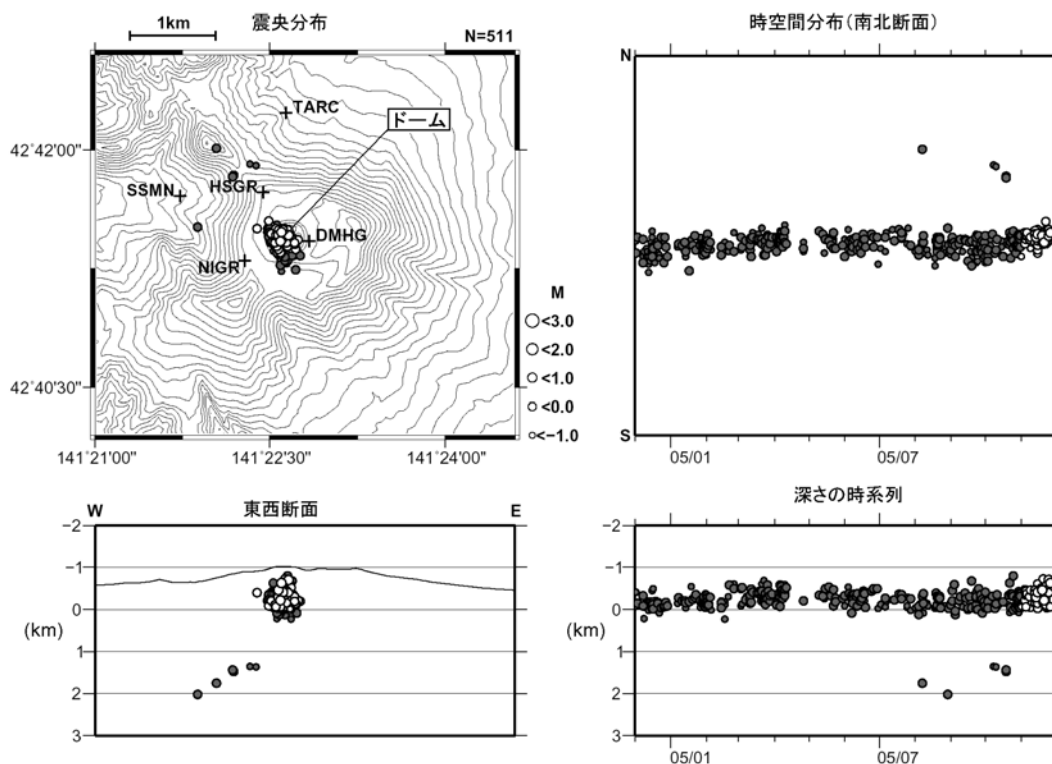
3 地震および微動の発生状況

地震回数は 1 日あたり 10 回以下と落ち着いた状態で推移していましたが、15 日には 179 回と一時的に急増し、その後も 23 日まで 1 日あたり 20 回程度の活動が続きました。震源域は前期間までと比べ特段の変化はありませんでした。月回数が 300 回を超えたのは 2001 (平成 13 年) 8 月 (372 回) 以来のことです。

火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数 (C 点)

2004~2005 年	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
地震回数	25	55	59	77	62	46	75	33	46	50	96	360
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



樽前山の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点)

○印は今期間 (2005 年 11 月 1 日~30 日) に求まった震源を示しています。

●印はは前期間までの 11 ヶ月間 (2004 年 12 月 1 日~2005 年 10 月 31 日) に求まった震源を示しています。

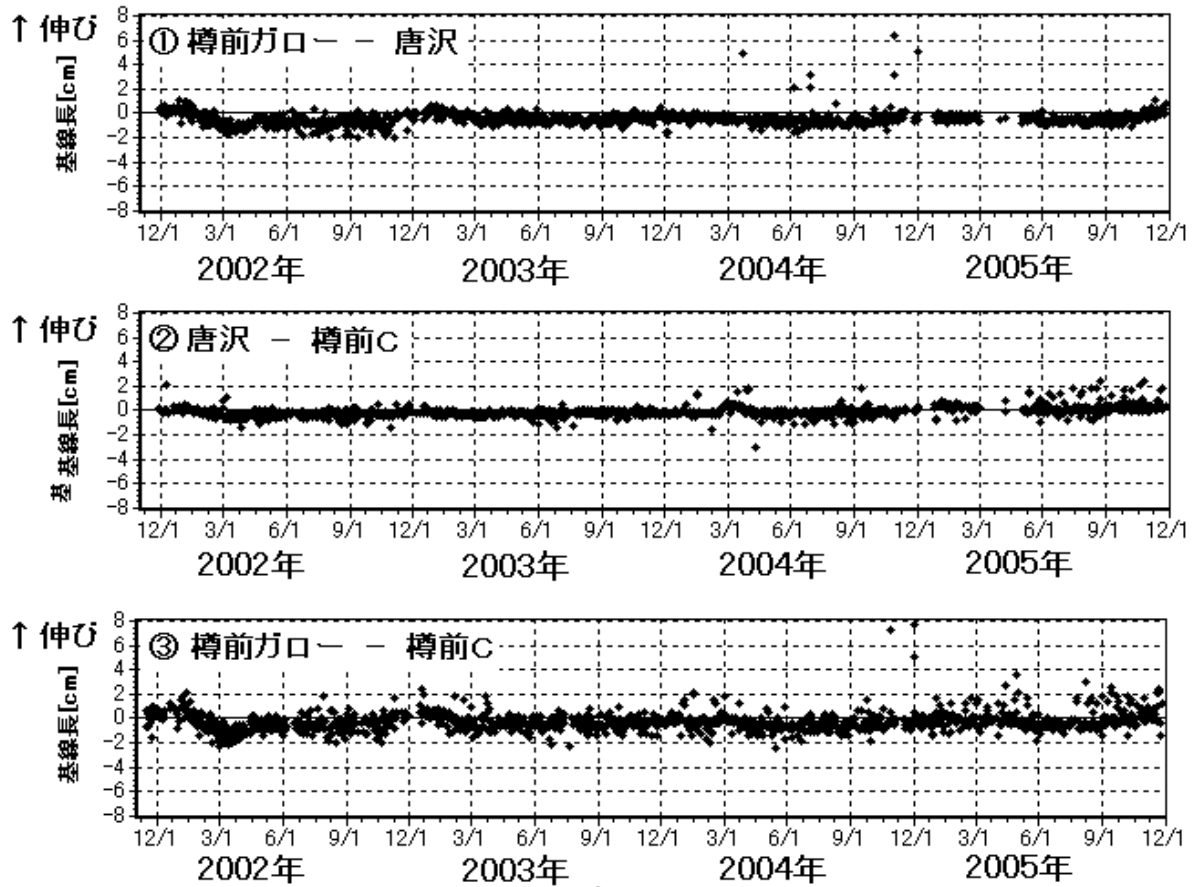
震源は山頂ドーム直下の海面付近に集中し、ドームの北西及び西約 1.5km 付近のやや深いところ (海面下約 2km 前後) にも分布が見られます。今期間に求まった震源は、山頂ドーム直下の海面付近に集中しています。

震源分布図の説明

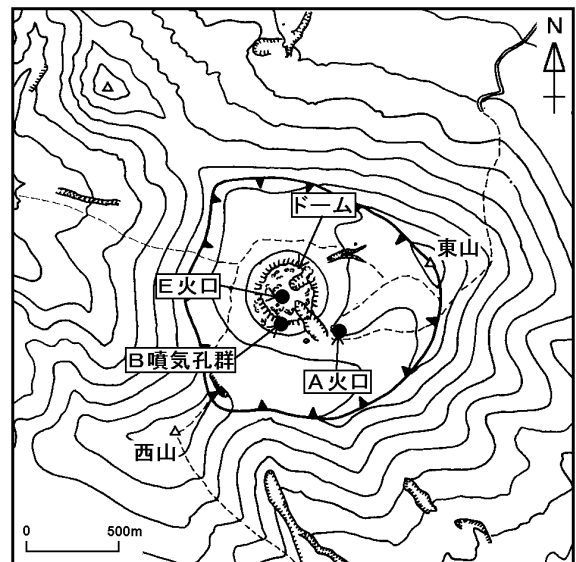
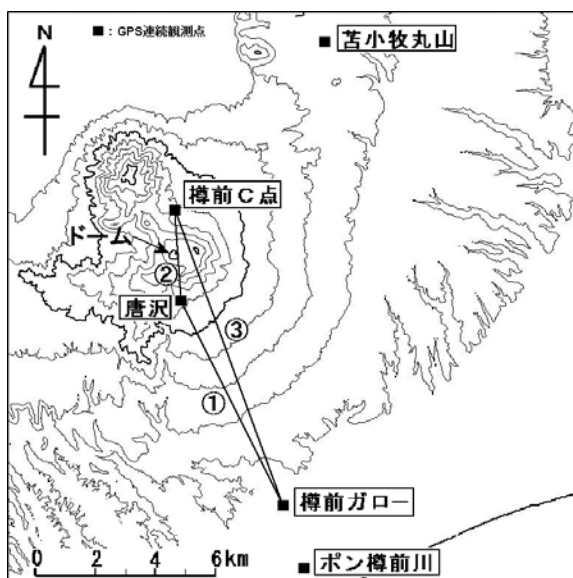
- ・東西断面：震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布：震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列：時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化 (2001 年 11 月 14 日~2005 年 11 月 30 日)

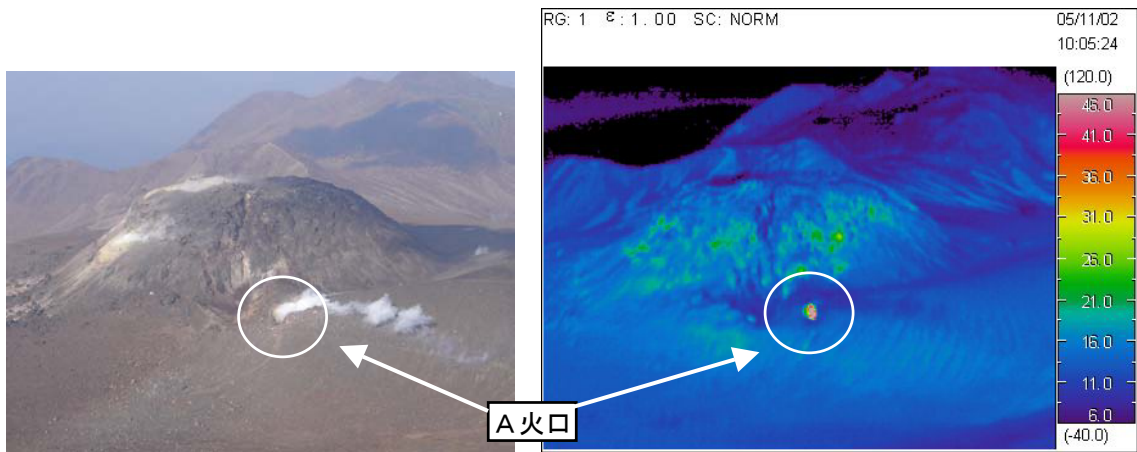


樽前山山頂火口原図

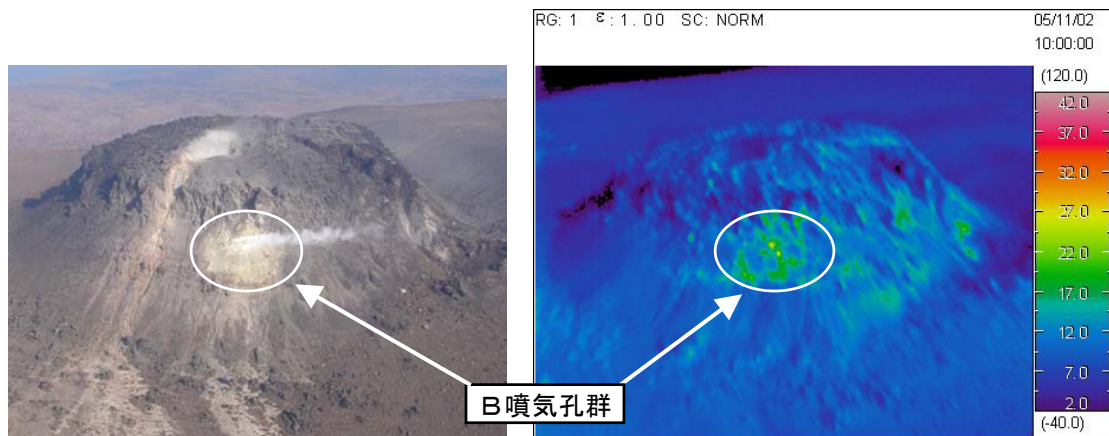
5 上空からの観測結果

11 月 2 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、ドームおよびドーム周辺の火口や地熱域の状況に変化はありませんでした。

赤外熱映像装置*による観測では、A火口及びB噴気孔群に対応する高温域が認められました。A火口及びB噴気孔群では引き続き高温の状態が続いているものと推定されます。



南東側上空から測定したドームの表面温度分布



南西側上空から測定したドームの表面温度分布

*赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができません。